

# 令和7年度 わくわく園庭作りプロジェクト ～後期の取組～

## わくわく園庭作りプロジェクトとは

園庭を「心や体がわくわく・ドキドキして思わず関わりたくなる場」にするために、5歳児が中心にアイデアを出し、子どもと職員が一緒につくっていくプロジェクトです。令和4年度から取組みを開始しました。

令和5年度から、推進委員会を立ち上げ、下の図の「池作り」「草花と仲良し」「虫さんおいで」「ごっこ遊び」「運動遊び」の5つのグループのリーダーが毎月集まり、進捗状況やこれから取組みたいことを確認・検討しながら進めています。

令和6年度からは、全保育者が5つのグループのいずれかのメンバーになって、園庭が子どもたちの「主体的な遊びの場」「豊かな経験をする場」になるように取り組んでいます。

令和7年度は、各グループの推進委員を中心にしながら、さらにグループメンバー全員に取組が広がるようにしてきました。

自然環境の充実			遊びの充実	
池作り	草花と仲良し	虫さんおいで	ごっこ遊び	運動遊び

## 【池作りのグループの取組】

子どもたちが命名してくれた“みんなのいけ”では、こども園の多くの子が興味をもってメダカを育てている姿が見られます。餌やりやゴミすくいも子どもたちと一緒にしています。メダカの数が減ってしまったので、部屋で育てているメダカの稚魚がもう少し大きくなったら池へ放流し、元気に泳ぎ回るのを楽しみにしています。

(成果) 職員やふぁいと組の子どもたちが池の管理をしていると、その様子を見て他の組の子どもたちもお世話を手伝ってくれて、メダカを見ている姿が増えました。

(次年度に向けて)

メダカが産卵・孵化して増えていくように、暑さの厳しい時期は室内に移動して飼育したり、タニシやエビなども一緒に飼育をして水質の安定を試みたりして、更々にぎやかな池になるように計画していきたいと思えます。



## 【取組による子どもたちの気付きや発見の紹介】

池の近くに掲示したメダカの生態を掲示したことで、池の生き物に興味をもってお世話をする姿がありました。「地球温暖化の影響かな?」と難しい言葉を使って話しかけてくるわんぱく組の子もいてお世話をしながら会話も盛り上がりました。



## 【草花と仲良しのグループの取組】

### 【取組による子どもたちの気付きや発見、 草花を使った遊びを楽しむ姿の紹介】

水を入れた袋に落ちている花びらを入れて揉むと、紫やピンクに水が変化するのを見て楽しんでいました。ごっこ遊びや製作に取り入れたりして、遊び方が広がっています。



### (取組の成果)

昨年より、草花を使った遊びが幼児部や乳児部の子どもたちに浸透してきました。秋になり、園庭の銀杏の木の色が変わり、地面が落葉でいっぱいになると、落葉で花束を作り部屋に飾ったり、かき集めた落葉をシャワーのようにしたりして楽しんでいました。遠足や散歩で拾ってきた落葉を使って、葉っぱでお面を作ったり、落葉を使った製作などをしたりして楽しみました。だんだんと草花の遊びが広がり、子どもたちの遊びのレパートリーが増えていっています。

## 【虫さんおいでのグループの取組】

- 「せっかく虫を捕まえても、蓋とケースの合った虫かごがすぐに見つからない…」という子どもや職員の声から、園庭にある棚を整理し、虫かごをすぐに取り出しやすいようにしました。子どもたちは園庭で虫を見付けると自分から虫かごを取り出して虫を入れるようになり、観察や飼育を楽しむ姿が増えました。
- 『とうきょうすくわくプログラム』の活動と連携し、5歳児が虫を呼び込むための虫宿作りをしました。園庭や地域で集めてきた落ち葉や枝などを木枠の中に入れて、虫が住みやすい環境を作り、園庭に設置しています。活動後も、虫宿を気にかけて、水をかけて湿らせたり、虫がいるか探したりする姿が見られました。



## 【取組による子どもたちの気付きや発見の紹介】

5歳児が園庭でイトトンボ、虫宿でカマキリを発見！今まで園庭ではあまり見られなかった虫を発見して、喜んで観察したり、図鑑で調べたりしていました。



## 【ごっこ遊びのグループの取組】

### 【取組によって、子どもたちの園庭でのごっこ遊びがこんなふうになりました】

今までも皿に砂を乗せて砂の料理を作って遊ぶ姿が見られていました。環境を工夫したことで、さらに、お店屋さんの場を作ったり、砂や葉っぱを焼いたりしてお店屋さんになりきって楽しむ姿が見られました！



前期にグループの部員から“場づくりを楽しめるものがあるとよいのではないか”“なりきるきっかけになる遊具を用意したい”と意見が出たため、ホワイトボードでもお伝えしたような、レジャーシートや焼き台等を新たに作成しました。子どもたちに出す前には、全ての学年の保育者が実際に園庭で遊びながら、「どのような遊び方があるか」「安全に楽しむためにどのような約束が必要か」等について検討しました。

その後、実際に園庭に出すと、子どもたちは、大人が考えつかなかったような、柔軟な発想でお店屋さんを作ってみたり、家に見立ててみたりしていました。今までの園庭でのごっこ遊びがより広がるようになりました。

## 【運動遊びのグループの取組】

前期での取り組みで運動用具が取り出しやすいカゴの仕分けや表示をしたことで手に取りやすくなり、子どもたちが遊びに取り入れる機会が増えました。後期も縄やスキップボールなどの手具置き場に表示をつけました。置き場所がわかることで興味をもち幼児は縄跳びやスキップボールチャレンジ、乳児はつなげて遊ぶなど様々な遊びの姿が見られます。遊んだ後は、表示を見て片付けまで上手にできるようになりました。



## 【取組によって園庭での運動遊びの変化紹介】

子どもたちが自分から「縄跳びの縛り方教えて」と言うようになり、何度も試しながら「自分でできるようになったよ」と報告していました。

縄を片付ける時に子どもが自分で縛って片付けています。

